

20:26 年が改まると、ベン・ハダドはアラム人を召集し、イスラエルと戦うためにアフェクに上って来た。

20:27 一方、イスラエル人も召集され、食糧を受けて、彼らを迎え撃つために出て行った。イスラエル人は彼らと向かい合って、二つの小さなやぎの群れのように陣を敷いたが、アラム人はその地に満ちていた。

20:28 ときに、一人の神の人が近づいて来て、イスラエルの王に言った。「【主】はこう言われる。『アラム人が、【主】は山の神であって低地の神ではない、と言っているの、わたしはこの大なる軍勢をすべてあなたの手に渡す。そうしてあなたがたは、わたしこそ【主】であることを知る。』」

20:29 両軍は互いに向かい合って、七日間、陣を敷いていた。七日目になって戦いに臨んだが、イスラエル人は一日のうちにアラムの歩兵十万人を打ち殺した。

20:30 生き残った者たちはアフェクの町に逃げたが、その生き残った二万七千人の上に城壁が崩れ落ちた。ベン・ハダドは逃げて町に入り、奥の間に入った。

20:31 家来たちは彼に言った。「イスラエルの家の王たちは恵み深い王である、と聞いています。それで、私たちの腰に粗布をまとい、首に縄をかけ、イスラエルの王のもとに出て行かせてください。そうすれば、あなたのいのちを助けてくれるかもしれません。」

20:32 こうして彼らは腰に粗布をまとい、首に縄をかけ、イスラエルの王のもとに行き願った。「あなたのしもべ、ベン・ハダドが『どうか私のいのちを助けてください』と申

しています。」するとアハブは言った。「彼はまだ生きているのか。彼は私の兄弟だ。」

20:33 この人々は、これは吉兆だと見て、すぐにそのことばにより事が決まったと思い、「ベン・ハダドはあなたの兄弟です」と言った。王は言った。「行って、彼を連れて来なさい。」ベン・ハダドが王のところに出て来ると、王は彼を戦車に乗せた。

20:34 ベン・ハダドは彼に言った。「私の父が、あなたの父上から奪い取った町々をお返しします。あなたは私の父がサマリアにしたように、ダマスコに市場を設けることもできます。」「では、契約を結んで、あなたを帰そう。」こうして、アハブは彼と契約を結び、彼を去らせた。

主はあわれみ深い神です。ただし自分勝手に主に従わない者にまで、同じように恵を施すわけではありません。主に従うことの価値が分からなくなってしまいうでしょう。主に従わないということは、永遠のいのちという何にも代えがたい恵をないがしろにすることだからです。私たちも主に従うことを、互いに励まし合う必要があります。主に背くことまで「あわれみ深く」認めることは、その人に間違った生き方を助長し、その結果永遠のいのちに関して危険をもたらすこととなります。このアハブが見せた「あわれみ」は、主に従ってのものではありません。自己満足の人情であっても問題ですが、さらに打算があつてのことでした。すなわちアラムの国に市場を設けて、それで利益があると期待したのです。それは後に主にさばかれることとなります。

主の第一にしましょう。その御心、教え、ご命令を無視しているときは、人情を神にしていなか、または誰かのためにと言いつつそこに打算が働いていないだろうか、よく考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

